

2022年3月卒業予定者
臨時・緊急アンケート
新卒採用レポート



Z世代のコロナ禍就活



東証一部上場

学情
GAKUJO

45★
YEARS
ANNIVERSARY
おかげさまで、創業45周年

新卒採用レポート Z世代のコロナ禍就活

2022年3月卒業(修了)予定の大学生・大学院生を対象に、臨時・緊急アンケートを実施しました。

コロナ禍で、「売り手市場」から情勢が変化していますが、2022年卒学生は、過去にあったこれまでの、学生に不利な「買い手市場」と呼ばれる局面とは異なる特徴的な動きを見せています。「Z世代」と呼ばれる学生の就職意向や仕事観をひも解くために、「臨時・緊急アンケート」の回答を集計し、「新卒採用レポート Z世代のコロナ禍就活」として発表いたします。

【調査概要】

- ・調査対象：2022年3月卒業(修了)予定の大学生・大学院生
「あさがくナビ2022(ダイレクトリクルーティングサイト会員数No.1)」へのサイト来訪者
- ・調査方法：Web上でのアンケート
- ・調査期間：2021年6月4日～2021年6月18日
- ・有効回答数：981名

INDEX

I 就職活動の状況

- 1. プレエントリーについて …P.5
- 2. セミナー・Webセミナー参加について …P.7
- 3. 選考参加について …P.9
- 4. 内々定について …P.10

II 就職活動の意向

- 1. 企業選びについて …P.13
- 2. 就職活動のモチベーション …P.14
- 3. 就職活動の不安や疑問の解決方法 …P.15



TOPICS

2022年卒学生は、「売り手市場」から情勢が変化しているものの、「選考に参加する企業」を絞り込むなど、特徴的な動きを見せています。**1社1社の企業研究に丁寧に取り組み、「第一志望かどうか」といった志望度に関する質問には正直に回答するなど、真摯に就職活動に取り組んでいる傾向**です。

また、「自身が内々定を複数保有することによる、企業や他の就活生への影響を考慮する」「社会的意義のある役割を担いたいと考える」「就職活動において、企業のSDGsに関する取り組みを意識する」など、2022年卒における特徴的な考え方も見えてきました。**「他者を尊重する」「環境や社会に配慮する」といったZ世代の価値観の表れなのかもしれません。**企業側にも、2022年卒の特徴や価値観を尊重しながら、採用活動を展開していくことが求められています。

▶セミナー参加後に、選考に参加するかどうかを絞り込む傾向

- ・セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった企業がある学生が、約9割に迫る
- ・セミナー参加後に、選考参加しなかった理由トップは、「企業の雰囲気や自分に合わないと思ったから」61.9%
- ・選考参加社数「10社以下」の学生が、約6割。選考に参加する企業を絞りこむ傾向が顕著に

▶1社1社の選考に真摯に取り組む

- ・2割の学生は、同時に複数の企業の選考に参加することに抵抗を感じる
- ・第一志望でない企業から「志望順位」を聞かれた際に、「第一志望と回答しない」学生が35.5%

▶「特に入社を希望する企業」には、広報解禁前から出会い、複数回接触

- ・内々定の獲得社数は「1社」47.1%、「2社」23.0%。2021年卒と比較すると「3社以上」が4.8ポイント増
- ・内々定を獲得している学生の約6割は、「特に入社を希望する企業」と出会った時期が「広報解禁前」
- ・内々定を獲得している学生の約2割は、「特に入社を希望する企業」と「6回以上」接点を持っている
「4回以上」接点を持つ学生は6割に達し、志望度の高い企業とは、複数回接点を持つ傾向

▶内々定辞退の連絡は、誠実に速やかに行う傾向

- ・2社以上の内々定を獲得した学生の約6割が、「内々定保有」を「1社」に絞り込む
- ・同時に複数の内々定を保有することについて、「抵抗」を感じる学生が38.3%

▶就活の疑問解消は、知り合いへの相談を抑え、インターネットでの検索がトップに

- ・就職活動の不安や疑問の解決方法は「インターネットで検索する」が最多。次いで「友人や先輩に相談する」



I 2022年卒学生就職活動の状況

I 就職活動の状況

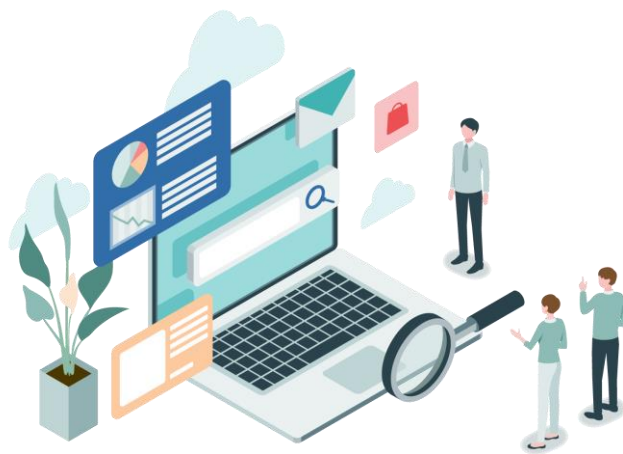
Analyse

2022年卒学生は、「売り手市場」から情勢が変化しているものの、「選考に参加する企業」を絞り込む傾向があります。「21社以上30社以下」の企業にプレエントリーをする学生が最多となっており、半数以上の学生が「21社以上」プレエントリーを実施しています。一方、「選考参加」については「10社以下」の学生が約6割を占め、例年以上に、「プレエントリー」後に、「選考に参加するかどうか」を絞り込んでいる傾向です。

企業の新卒採用意欲はコロナ禍でも底堅く、リーマンショック時のような落ち込みはありませんが、採用を縮小・凍結する企業もあり、これまでのような「売り手市場」からは情勢が変化しています。これまで、学生に不利な「買い手市場」と言われる局面では、「プレエントリー社数」や「選考参加社数」を増やす傾向でした。リーマンショック時などは、「100社以上」の企業にプレエントリーし、選考参加社数が「30社以上」に達する学生も少なくありませんでした。

今年は、「売り手市場」の傾向は弱まると予想されるなか、当初「選考参加社数」は増えると想定されていました。しかし、実際には、「選考参加社数」が「10社以下」の学生が約6割に上り、「プレエントリー後に、選考に参加する企業を絞りこんでいる傾向」です。その分2022年卒の学生は、選考に参加する企業の企業理解・企業研究を、丁寧に取り組んでいます。「特に入社を希望する企業」において、57.7%の学生は「4回以上」接点を持っており、「6回以上」接点を持った学生も17.5%に達します。「入社後にギャップがないように、企業のことを深く理解したい」という意向が強く、入社後の活躍を見据えて、1社1社丁寧に就職活動に取り組んでいると考えられます。企業側も、「企業理解を深めたい」という学生の思いを尊重し、オンライン・リアル問わず「コミュニケーション」を図る機会を複数設けることが必要になっています。

また、「内々定の承諾・辞退」においても、予想とは異なる傾向が見えてきています。昨年より、コロナ禍で「内定取り消し」が発生するケースもあり、学生は内々定を獲得後も、「複数の内々定を保有し続ける」と想定されていましたが、実際には逆の傾向です。複数の内々定を獲得した学生の約6割は、「内々定保有企業」を1社に絞り込み、入社意思のない企業には早めに「辞退」の連絡を済ませています。「自身が内々定を持ち続けること」で生じる、他の学生や、企業の採用計画への影響を考慮し、「複数企業の内々定を持つこと」に抵抗を感じる誠実な姿勢は、「他者を尊重する」「環境や社会に配慮する」など、2022年卒における特徴的な価値観の表れと言えます。企業側にも、2022年卒の特徴や価値観を尊重しながら、採用活動を展開していくことが必要となっています。



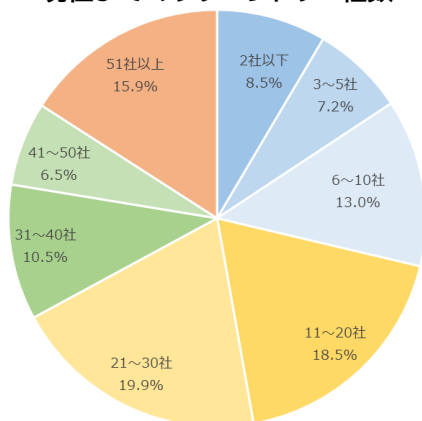
I 2022年卒学生就職活動の状況

1. プレエントリーについて

プレエントリー社数は「21～30社」が19.9%で最多。半数以上の学生が、「21社以上」にプレエントリー。一方、プレエントリー＝「選考参加」とは限らない。約6割は「お知らせ受信」「セミナー参加」を目的にプレエントリーしていることが明らかに。

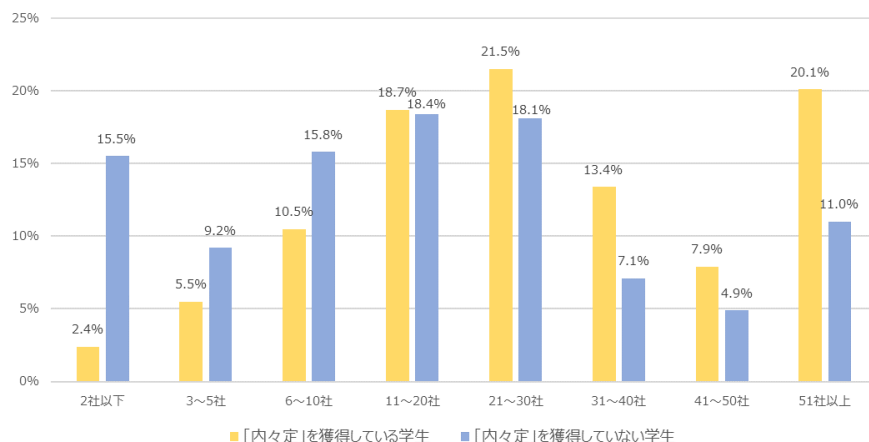
(1) プレエントリー社数

現在までのプレエントリー社数



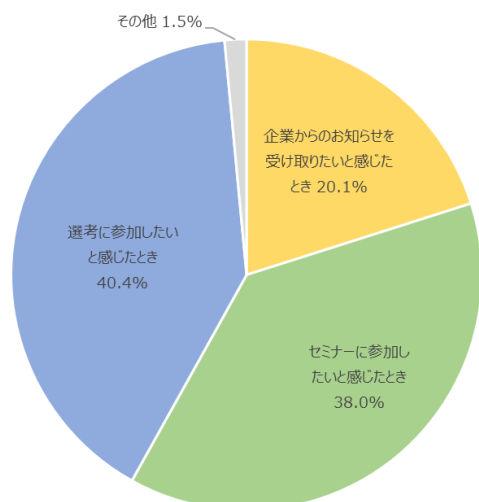
プレエントリー社数は「21～30社」が19.9%で最多。半数以上の学生は、「21社以上」の企業にプレエントリーしています。「内々定」を獲得している学生は、「21社以上」プレエントリーを実施している割合が62.9%に達しました。一方、「内々定」を獲得していない学生では、「21社以上」プレエントリーを実施している割合は41.1%に留まりました。

現在までのプレエントリー社数



(2) プレエントリーするタイミング

プレエントリーしたいと感じるタイミングに最も近いもの



プレエントリーしたいと感じるタイミングは、「選考に参加したいとき」が40.4%で最多となりました。一方、「企業からのお知らせを受け取りたいとき」20.1%、「セミナーに参加したいと感じたとき」38.0%となっており、約6割の学生は「選考参加」手前の、「お知らせ受信」「セミナー参加」を目的にプレエントリーしていることが分かります。

「セミナーのお知らせを受信したいときにプレエントリーしている」「情報を受け取れる状態にしておきたいと思ってプレエントリーしていた」「希望と合致するかを知るために、プレエントリーしている」「選考に参加するかどうかは、セミナーに参加してから決めている」「選考に参加する企業は、内々定をもらったら入社したい企業に絞っている。プレエントリー後に、選考に参加するかどうかは改めて考えるようにしている」などの声が挙がりました。

「プレエントリー」と「選考参加」には大きな違いがあると捉えている学生が多い傾向。

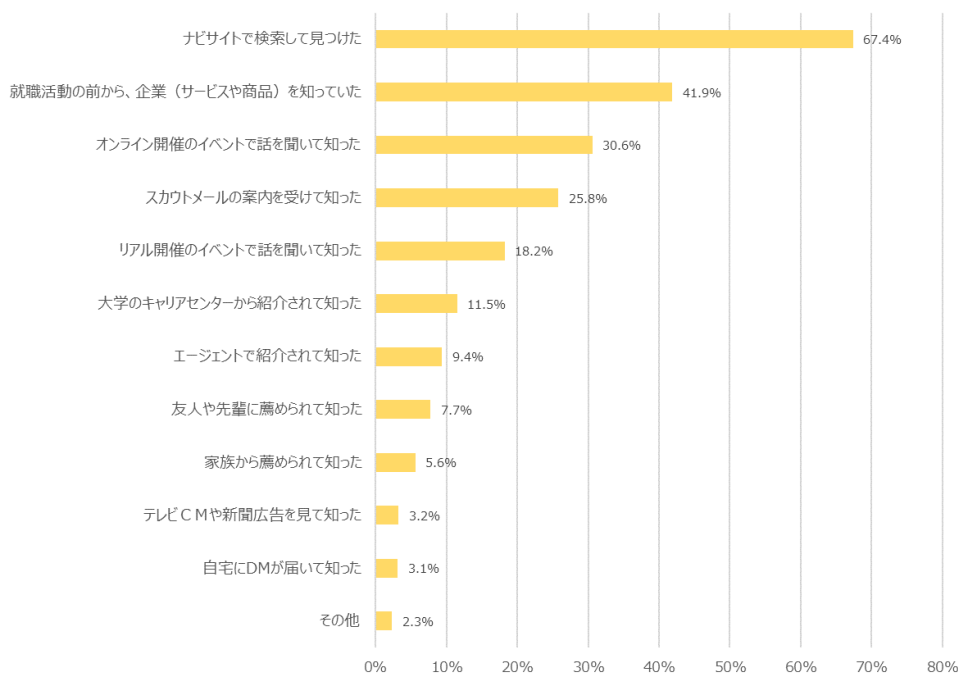
I 2022年卒学生就職活動の状況

プレエントリーした企業を知った経路は「ナビサイト」が67.4%で最多。「オンライン開催イベント」も3割超。スカウトメールを受信した企業にプレエントリーした理由は「希望する職種・仕事内容だったから」が最多。

(3)プレエントリー企業を知る経路

プレエントリーした企業を知った経路は、「ナビサイト」が67.4%で最多。次いで、「就職活動の前から企業（サービスや商品）を知っていた」41.9%が続きました。「オンライン開催のイベントで話を聞いて知った」30.6%、「スカウトメールの案内を受けて知った」25.8%、「リアル開催のイベントで話を聞いて知った」18.2%となっており、「偶然の出会い」で企業を知り、プレエントリーする学生も多いことが分かります。

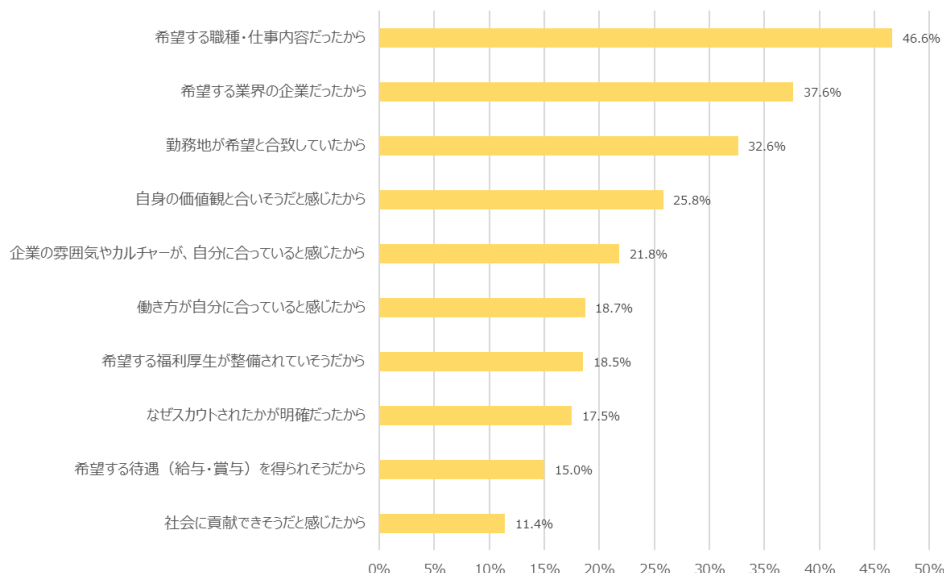
プレエントリーした企業を知った経路(複数回答可)



(4)スカウトメール経由でのプレエントリー

スカウトメールを受信した企業に、プレエントリーした理由は、「希望する職種・仕事内容だったから」が46.6%で最多。次いで、「希望する業界の企業だったから」37.6%、「勤務地が希望と合致していたから」32.6%と続きます。スカウトメールを受信した際は、「職種」や「業界」「勤務地」など、求人の基本となる項目が希望と一致している際に、プレエントリーしようと感じる学生が多いことが分かります。

スカウトメールを受信した企業に、プレエントリーした理由(複数回答可)



※スカウトメールを受信した企業にプレエントリーしたことがある学生が回答 (n=481)

「オンライン開催イベント」「リアル開催イベント」「スカウトメール」など偶然の出会いから企業を知り、プレエントリーをした学生も多数。

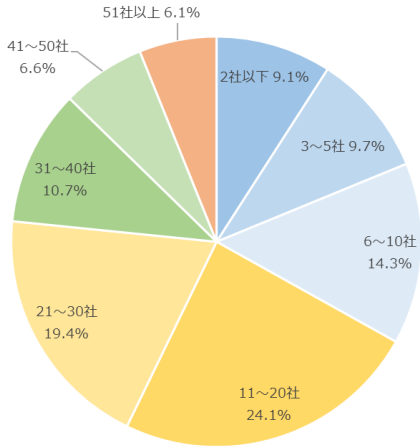
I 2022年卒学生就職活動の状況

2. セミナー・Webセミナー参加について

セミナー・Webセミナー参加社数は「11～20社」が24.1%で最多。
6割以上の学生が、「11社以上」のセミナー・Webセミナーに参加している。
一方、セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった企業がある学生が、約9割に迫る。

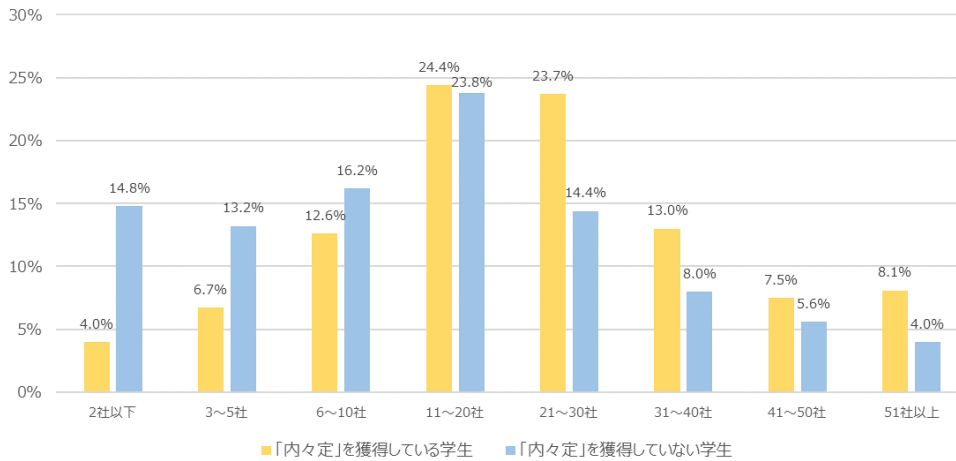
(1) セミナー・Webセミナー参加社数

現在までのセミナー・Webセミナー参加社数



セミナー・Webセミナー参加社数は「11～20社」が24.1%で最多。次いで、「21～30社」19.4%が続きます。66.9%の学生が、「11社以上」のセミナー・Webセミナーに参加していることが分かります。「内々定」を獲得している学生は、「11社以上」のセミナー・Webセミナーに参加している割合が76.7%に達しました。一方、「内々定」を獲得していない学生では、「11社以上」のセミナー・Webセミナーに参加している割合は56.3%に留まりました。

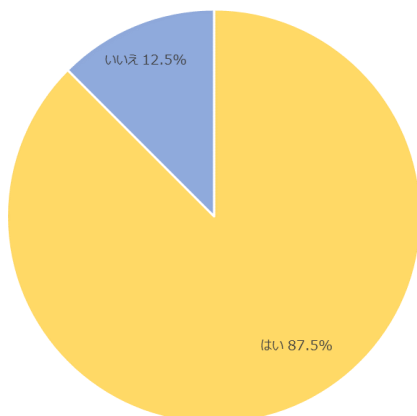
現在までのセミナー・Webセミナー参加社数



(2) セミナー・Webセミナーから選考への移行

セミナーに参加したものの、
選考に参加しなかった企業がある

セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった企業がある学生が、87.5%に上ります。大半の学生が、セミナー参加後に選考参加を取りやめた経験があることが分かります。



コロナ禍でWebセミナーが増加し、気軽に参加できるようになったことも、セミナー後に選考参加企業を絞り込む要因と考えられる。

I 2022年卒学生就職活動の状況

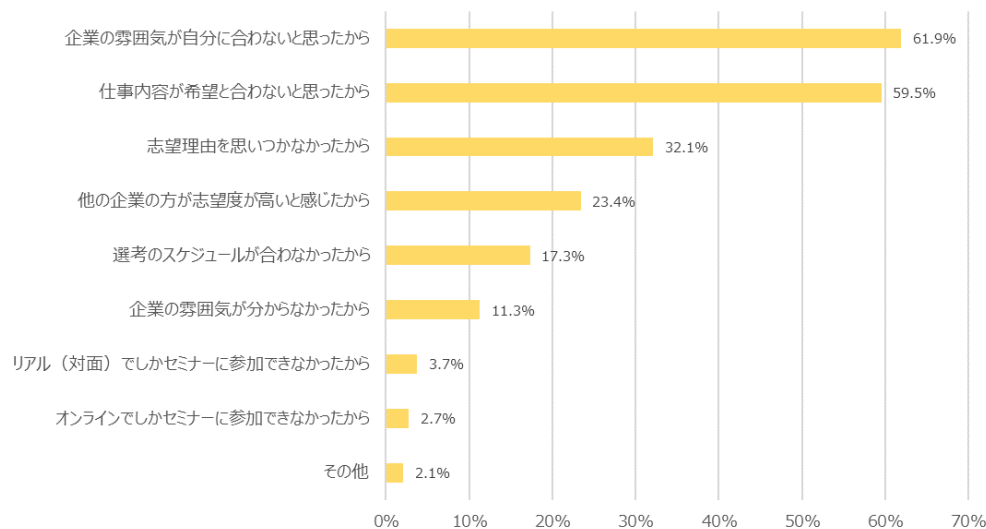
選考に参加しなかった理由トップは、「企業の雰囲気が自分に合わないと思ったから」61.9%

(3)セミナー参加後に、選考に参加しなかった理由

セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった理由は、「企業の雰囲気が自分に合わないと思ったから」が61.9%で最多。次いで、「仕事内容が希望と合わないと思ったから」59.5%、「志望理由を思いつかなかったから」32.1%と続きます。セミナー参加時に、希望と合致していないと感じた企業は、選考参加を取りやめる傾向にあることが分かります。

2021年4月に2022年卒を対象に実施したアンケートでは、Webセミナー・Web面接で不安なことについて、半数以上が「画面越しだと、企業や社員の雰囲気が分かりにくい」としています。Webセミナーでは、企業の雰囲気を把握することが難しく、少ない情報で「企業の雰囲気が自分に合うか」を判断しなければいけないことも、セミナー参加後に選考を取りやめる要因になっている可能性も考えられます。

セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった理由(複数回答可)

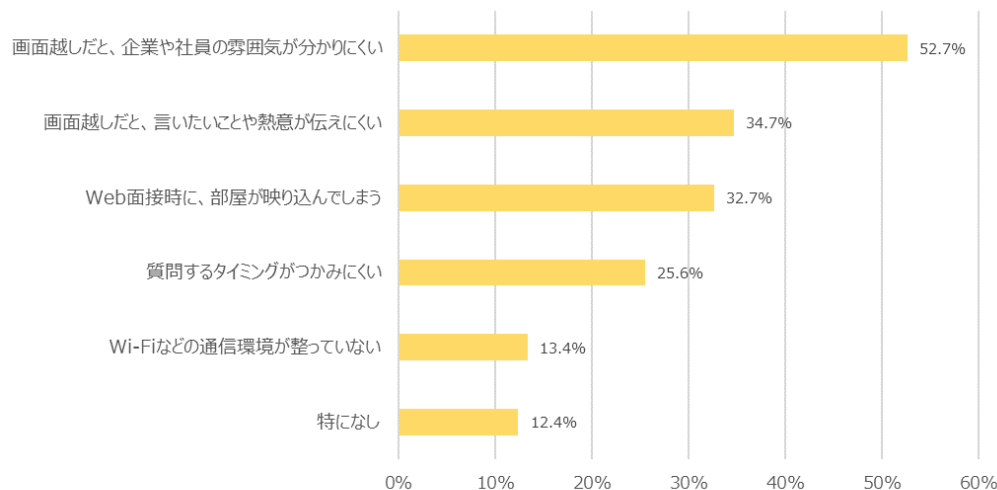


※セミナーに参加したものの、選考に参加しなかった企業がある学生が回答 (n=803)

Analyse

2022年卒の学生は、「セミナー」で興味を持ち、「入社したい」と感じた企業に絞って「選考」に参加する傾向があります。一因として考えられるのは、「セミナー」の「オンライン化」が急速に進んでいる点です。多くの企業が「Webセミナー」を導入しています。「Webセミナー」は交通費や移動時間が不要なため「気軽に参加できる」というメリットがありますが、一方で、「**会社の雰囲気が**」を知ったり、「**経営者や人事担当者の想い**」に触れる機会は限られます。「会社の雰囲気」や「社員との相性」を感じ取りにくいため、「セミナー」参加後に、「選考」参加を取りやめる学生が増えていると考えられます。企業は、「会社の雰囲気」や「社員の人柄」が伝わるように、「Webセミナー」の質を高めていくことが求められます。「Webセミナー」においても、リアルセミナーのように、「セミナーの内容」だけでなく、「セミナーで説明する様子や雰囲気」も伝えることが、「選考参加」の動機形成につながると考えています。

【参考】Webセミナー・Web面接で不安なこと(複数回答可)



※Webセミナー・Web面接に「参加したことがある」とした2022年卒が回答/2021年4月実施 (n=395)

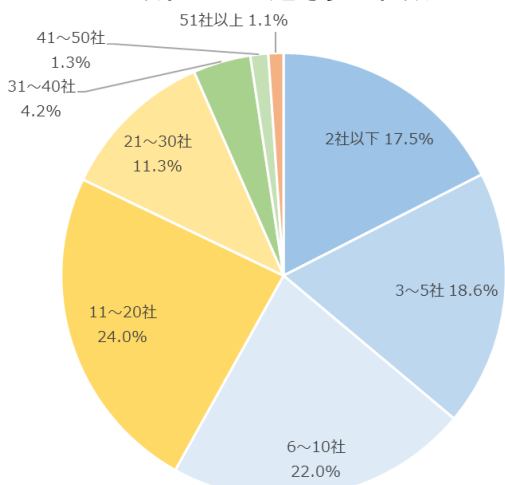
I 2022年卒学生就職活動の状況

3.選考参加について

選考参加社数「10社以下」の学生が、約6割。選考に参加する企業を絞りこむ傾向が顕著に。2割の学生は、同時に複数の企業の選考に参加することに抵抗を感じている。

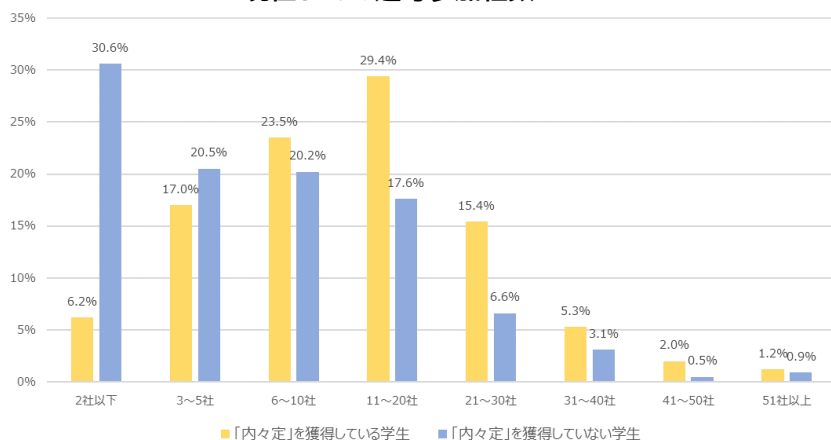
(1)選考参加社数

現在までの選考参加社数



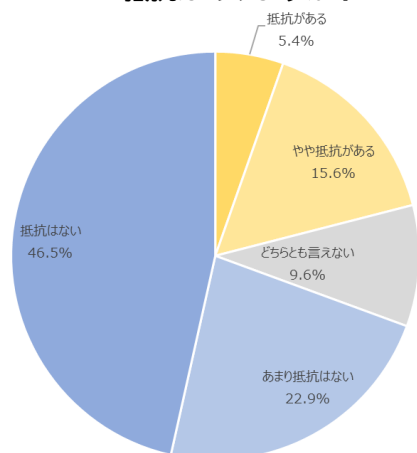
約6割の学生は、選考参加社数が「10社以下」となっています。現在までの選考参加社数について、「5社以下」と回答した学生が36.1%、「10社以下」と回答した学生が58.1%となっており、**選考に参加する企業を絞りこむ傾向が顕著**になっています。内々定を獲得している学生では、「10社以下」の回答は46.7%でしたが、内々定を獲得していない学生では、「10社以下」が71.3%に上りました。内々定の有無にかかわらず、選考参加企業を絞りこんでいることが分かります。

現在までの選考参加社数



(2)同時に複数の企業の選考に参加することについて

同時に複数の企業の選考に参加することに、抵抗はありますか？



同時に複数の企業の選考に参加することについて、「抵抗を感じる」と回答した学生が、21.0%に上りました。「1社あたりの企業研究が疎かになるのではないかと感じる」「嘘でも、第1志望ですと言わなければいけないことに、抵抗を感じる」といった声が挙がりました。

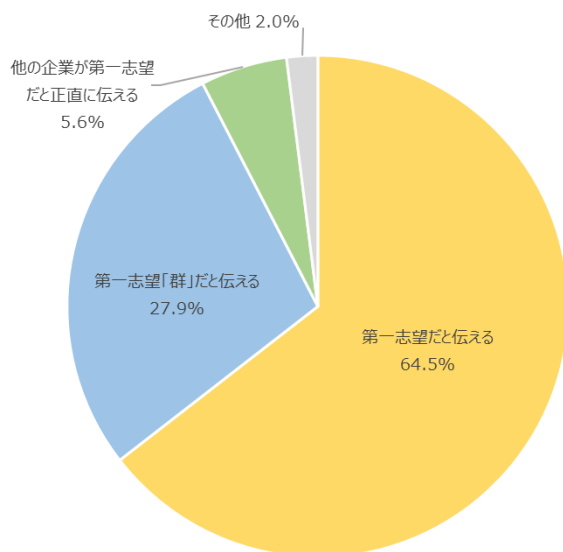
プレエントリーは「21社以上」実施する学生が5割を占めるものの、選考参加社数は「10社以下」の回答が6割に迫る。選考参加時に、**企業を絞り込む傾向が顕著**となっている。**コロナ禍で「Web面接」が急拡大したことにより、2021年入社**の就職活動では「ミスマッチ」が課題になっていたため、**ミスマッチを防ぎたいという思いも、選考参加企業を絞り、1社1社の企業研究を丁寧に取り組む姿勢に反映されている**と考えられる。

I 2022年卒学生就職活動の状況

第一志望でない企業から「志望順位」を聞かれた際に、「第一志望」と回答しない学生が35.5%

(3)選考での「志望順位」の伝え方について

第一志望でない企業から「当社の志望度は何番目ですか？」と質問された場合



第一志望でない企業から「当社の志望度は何番目ですか？」と質問された際に、「第一志望と伝える」とした学生は、64.5%でした。「第一志望『群』だと伝える」や「他の企業が第一志望だと伝える」など、「第一志望」以外の回答をするとした学生が35.5%に上りました。「第一志望と伝える」とした学生からは、「企業の立場に立ったら、1番と言ってくれる学生のほうが好感を持てると思う」「第一志望と伝えたほうが、内々定をもらいやすくなると思う」などの声が寄せられました。一方、「第一志望と回答しない」とした学生からは、「嘘をつくことに抵抗がある」「もし内々定をいただいて、その後、辞退することになったら失礼なので、正直に答えるようにしている」といった声が挙がりました。

第一志望でない企業から「志望順位」を聞かれた際の回答について、「企業の立場に立ったら、1番と言ってくれる学生のほうが好感を持てると思う」といった声が挙がる一方、「嘘をつくことに抵抗がある」という学生の声も。誠実に就職活動に取り組む姿勢が伺える。また、選考参加社数を絞り、1社1社の選考を丁寧に受験しているからこそ、志望順位が明確になっており、率直な考えを伝えていると推察される。

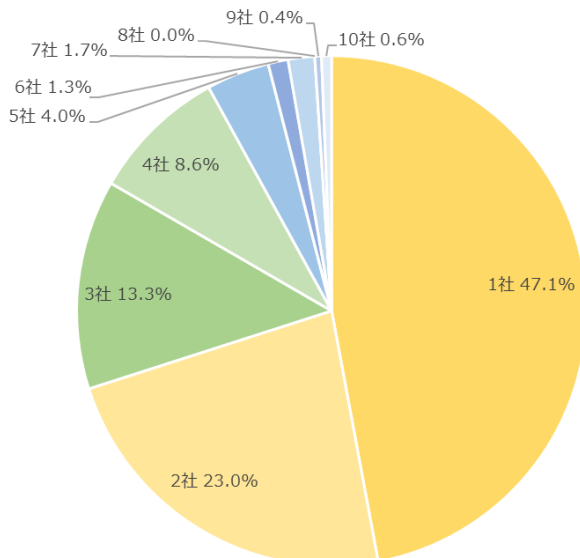
4.内々定について

内々定の獲得社数は「1社」47.1%、「2社」23.0%。2021年卒と比較すると「3社以上」が4.8ポイント増。内々定を獲得している学生の約6割は、「特に入社を希望する企業」と「広報解禁前」に出会っている。

(1)内々定獲得社数

内々定を獲得している学生の、獲得社数は「1社」が最多で47.1%、「2社」23.0%と続きます。「3社以上」獲得している学生が約3割に達し、2021年卒と比較すると4.8ポイント増加しました。

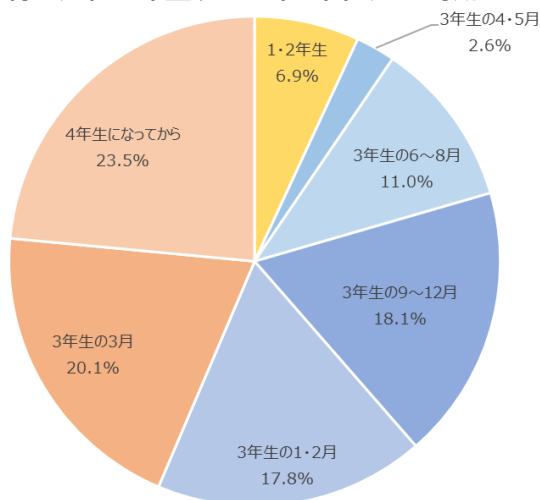
内々定を獲得した社数



I 2022年卒学生就職活動の状況

(2)内々定獲得企業と出会った時期

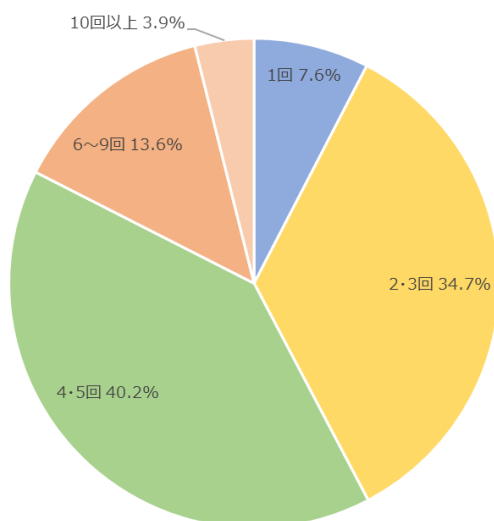
内々定を獲得した企業のうち、特に入社を希望する企業について、「広報解禁」より前に出会っている学生が、約6割に上ることが明らかになりました。特に入社を希望する企業と、「3年生の2020年4月～2021年2月まで」に出会ったと回答した学生が49.5%に達し、「1・2年生」と回答した学生も、6.9%いました。「広報解禁以降(3年生の3月以降)」の回答は、43.6%でした。

内々定を獲得した企業のうち、
特に入社を希望する企業に出会った時期

※「内々定」を獲得している学生が回答 (n=493)

(3)内々定獲得企業と接点を持った回数

内々定を獲得した企業のうち、特に入社を希望する企業について、「4回以上」接点を持ったと回答した学生が57.7%に上りました。接点を持った回数で、最も多かったのは「4・5回」で40.2%でした。「6～9回」13.9%、「10回以上」3.9%となっており、**志望度の高い企業とは複数回接点を持っていることが分かります**。「面接で具体的に志望理由を話せるように、より詳しく企業のことを知りたいと思った」「入社後にギャップがないように、オンラインでのOB・OG訪問を積極的に行った」などの声が寄せられており、**接点を増やすことで、企業理解を深めたいという意向が伺えます**。

内々定を獲得した企業のうち、
特に入社を希望する企業と接点を持った回数

【志望度の高い企業と「4回以上」接点を持った学生の声】

- ・面接で具体的に志望理由を話せるように、より詳しく企業のことを知りたいと思った
- ・説明会はオンラインだったため、社風や仕事内容をより知りたいと思った
- ・オンライン座談会など、案内のあったコンテンツには全て参加した
- ・入社後にギャップがないように、オンラインでOB・OG訪問を積極的に行った
- ・大学2年生のときから、インターンシップや説明会に参加していた選考で有利になるように、人事の方に顔を覚えてもらいたいと思い、何度も参加した
- ・夏のインターンシップに参加後、座談会やセミナーにも参加し、面接を含めると10回以上接点を持った志望度が高かったため、より企業のことを理解できるように、案内のあったものは全て参加した
- ・オンラインでインターンシップに参加し、興味を持った企業はリアルなセミナーや座談会にも参加した

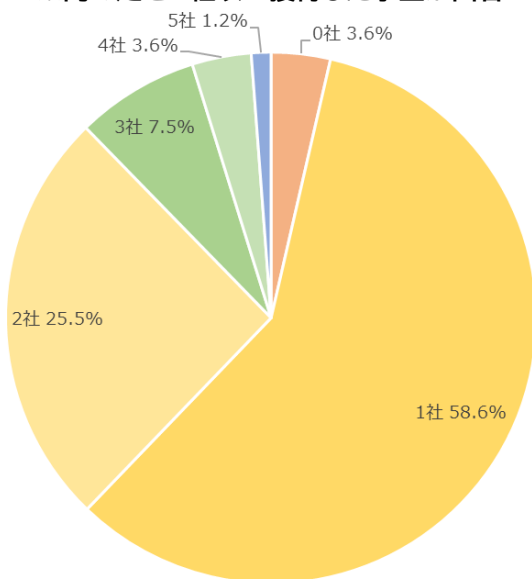
内々定を獲得している学生の約2割は、「特に入社を希望する企業」と「6回以上」接点を持っている。約6割の学生は「広報解禁前」に志望度の高い企業と出会っていることから、**志望度の高い企業は「3年生のインターンシップ期間」から接点を持ち、「何度も」接点を持っていることが分かる**。

I 2022年卒学生就職活動の状況

2社以上の内々定を獲得した学生の約6割が、「内々定保有」を「1社」に絞り込む。
約4割は、同時に複数の内々定を保有することについて、「抵抗」を感じている。

(4)内々定保有数

内々定を(辞退せずに)保有している社数
※内々定を2社以上獲得した学生が回答

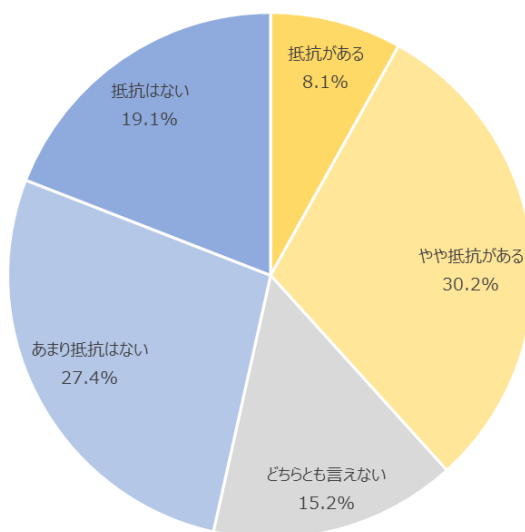


2社以上の内々定を獲得した学生の大半が、内々定を保有する企業を絞り込んでいることが明らかになりました。内々定を保有する企業について、「1社」と回答した学生が58.6%に上りました。次いで、「2社」25.5%と続きます。「3社以上」の内々定を獲得している学生も、78.0%は「1社」または「2社」に保有企業を絞り込んでおり、「入社意思」のない企業へは早めに「辞退」を済ませていることが分かります。

(5)同時に複数の企業の内々定を保有することについて

同時に複数の内々定を保有することについて、「抵抗がある」「やや抵抗がある」と回答した学生が38.3%に上りました。「自分が内々定を持っていることで、他の学生が採用されるチャンスを奪うことになってしまう」「企業に迷惑がかかると思う」などの声が挙がっており、他の学生や企業の採用計画への影響を考慮し、「複数企業の内々定を持つこと」に「抵抗」を感じていると推察されます。

同時に複数の内々定を保有することについて、
どのように感じますか？



【内々定の複数保有に抵抗があると回答した学生の声】

- ・自分が内々定を持っていることで、他の学生が採用されるチャンスを奪うことになってしまう
- ・他の学生の迷惑になる。出来るだけ早めに決断し、連絡を入れるようにしていた
- ・本当に入社したかった誰かの席を奪っている感じてしまう
- ・インターンシップや選考で良くしてもらった人事担当者に申し訳ないので、早くお断りするべきだと思う
- ・入社する企業は1社なので、早めに辞退したほうが、後ろめたさがない
- ・内々定を複数持っていることは不誠実だと思う

コロナ禍で「内定取り消し」が発生するケースもあり、学生は内々定を獲得後も、「複数の内々定を保有し続ける」と想定されていたものの、複数の内々定を獲得した学生の約6割は、「内々定保有企業」を1社に絞り込み、入社意思のない企業には早めに「辞退」の連絡を済ませている。自身が内々定を持ち続けることで、企業や他の就職活動生に迷惑をかけることは避けたいと、誠実な考えを持っている。

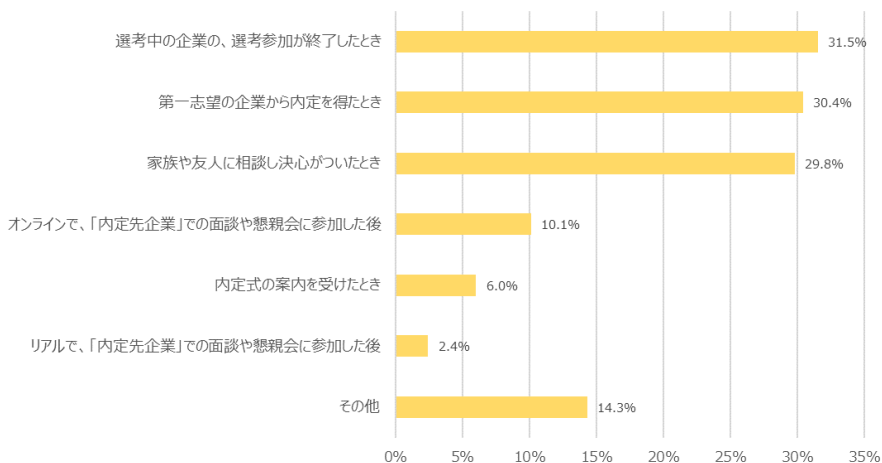
I 2022年卒学生就職活動の状況

「内々定承諾」をする企業を1社に絞ったタイミングは、「選考中の企業の選考参加が終了したとき」が最多。「就職活動を終える時点」で内々定を保有する企業を絞り込む学生が多い傾向。

(4)内々定承諾のタイミング(2021年9月調査)

2社以上の内々定を獲得した学生の大半が、内々定を保有する企業を早期に絞り込んでいますが、絞り込むタイミングでは、「選考中の企業の、選考参加が終了したとき」が31.5%で最多となりました。次いで、「第一志望の企業から内定を得たとき」30.4%と続きます。「選考時点で、志望順位は決まっていた。全ての企業の選考参加を終えた時点で、自分の意思を再度家族にも伝え、内定承諾を1社に絞った」「自分でやり切ったと思えるまで就職活動を続けたいと思っていた。これで終わろうと踏ん切りがついたタイミングで、承諾企業を1社に絞り、就職活動を終了した」などの声が寄せられており、「就職活動を終える時点」で内々定を保有する企業を絞り込む学生が多いことが分かります。

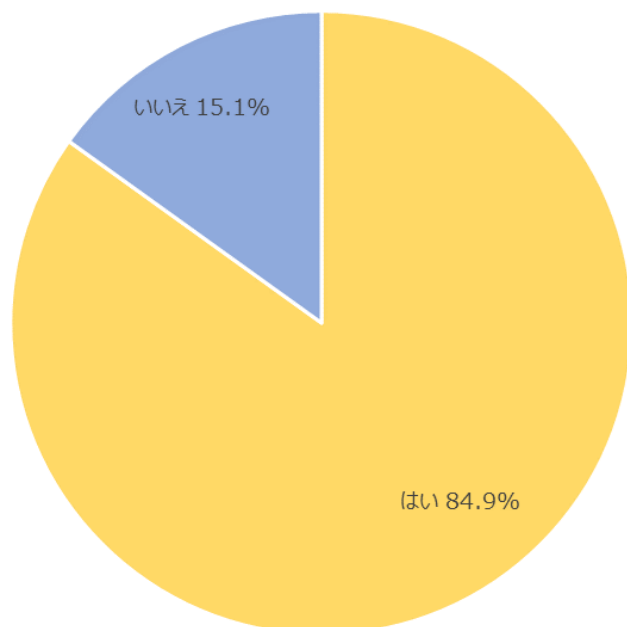
内定承諾をする企業を1社に絞ったタイミング(複数回答可)



(5)内々定承諾の決断について(2021年9月調査)

内々定企業の社員や内定者とリアルで話す機会があると、「内々定承諾」を決断する際にプラスになると回答した学生が8割を超えました。直接話す機会を持てると、内々定承諾を決断しやすいと考える学生が多いことが分かります。「同期となる内定者同士で話すことで、『やっていけそう』と感じることができた」「コロナ禍で、選考の大半がオンラインだったからこそ、直接企業に訪問しリアルで話せる機会があると嬉しい」などの声が上がりました。また、「リアルで内定者と交流した際に、内定者と雰囲気合わないと感じ辞退した企業がある。採用担当の方には申し訳ないことをしてしまったが、入社する前に気付くことができて良かった」といった声も寄せられており、社員や内定者とリアルで話す機会を設けることで、ミスマッチの解消にもつながっていることが分かります。

社員や内定者とリアルで話す機会があると、「内々定承諾」のプラスになりますか？



【学生の声】

- ・実際に働いている社員の方と話すことで、自身の将来をイメージできる
- ・説明会や面接でお会いした人事以外の方ともお話しする機会があると、企業や仕事をより深く理解できると思う。理解を深めることで、内々定承諾を決断できたと感じている
- ・選考時は、働き方や福利厚生に関する質問はしにくいので、内定後に「仕事や働き方のリアル」を質問できる機会があると、不安を解消した上で内々定承諾ができる
- ・同期となる内定者同士で話すことで、「やっていけそう」と感じる事ができた
- ・コロナ禍で、選考の大半がオンラインだったからこそ、直接企業に訪問しリアルで話せる機会があると嬉しい

【2021年9月調査 調査概要】

- ・調査対象：2022年3月卒業(修了)予定の大学生・大学院生
「あさがくナビ2022」へのサイト来訪者
- ・調査方法：Web上でのアンケート
- ・調査期間：2021年9月14日～2021年9月22日
- ・有効回答数：203名

II 2022年卒学生就職活動の意向

II 就職活動の意向

Analyse

企業選びでもっとも重視する点として「職種・仕事内容」を上げる学生が最多となり、具体的な配属先の明示や、どんな仕事を担当し、そこで得られるスキルなどについてしっかりとイメージをさせる必要があることがわかります。また、次いで「人事や社員との相性」が上がり、オンラインでのコミュニケーションの比重が大きくなる中で、人事担当者や現場社員との交流をはじめ、どのように雰囲気や伝わる機会を設けるのかがポイントになってきます。

また、企業のSDGsに関する取り組みや社会貢献活動を就職活動で意識するとした学生が半数を超える結果となりました。環境問題など、持続可能な社会の実現においてSDGsの取り組みが重視されていることは広く認知されており、企業の社会的責任についても、再度フォーカスされつつあることが見てとれます。

就職活動に対しては90%近い学生が不安に感じる・感じていたと回答しており、その解消方法として、企業への説明会参加やプレエントリーが最多という結果になりました。不安解消のためにとにかく企業との接点を持つ姿勢が見られます。不安な学生に寄り添う姿勢を示し、丁寧なコミュニケーションをとることによって、学生からの志望度を高めることができると推察されます。

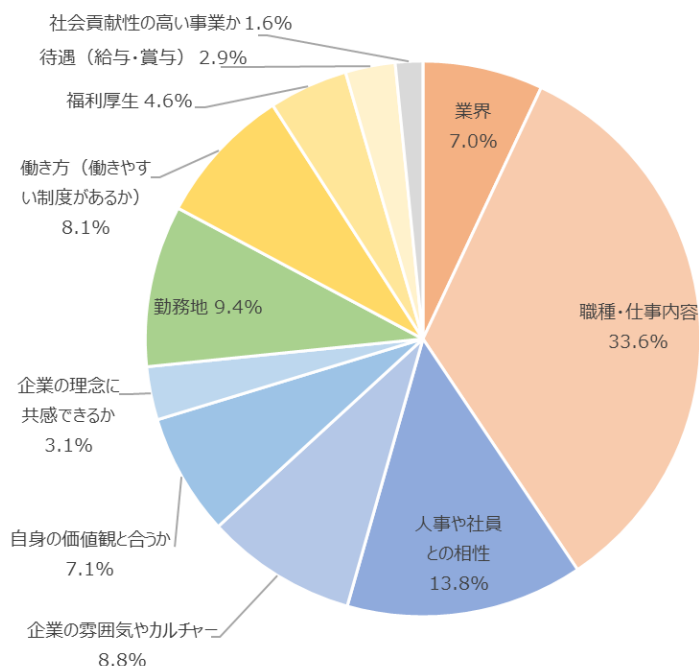
1. 企業選びについて

企業選びで最も重視する点は「職種・仕事内容」が33.6%で最多。「企業との相性」に関連する回答も3割超

(1) 企業選びで重視する点

企業選びで最も重視する点は、「職種・仕事内容」が33.6%で最多。次いで、「人事や社員との相性」が13.8%で続きます。「企業の雰囲気やカルチャー」8.8%、「自身の価値観に合うか」7.1%、「企業の理念に共感できるか」3.1%など、「企業との相性」を重視するという回答が3割超となりました。「仕事内容」や、「企業との相性」を重視する学生が多いことが分かります。「スキルが身につく職種で働きたい」「自分の強みを活かせる仕事をしたい」「社会的に意義のある役割を担える仕事をしたい」「価値観の合う企業のほうが、モチベーション高く働けると思う」「1日の多くの時間を仕事に費やすことになるので、人間関係や職場の雰囲気は大切だと思う」といった声が寄せられました。

企業選びで最も重視する点

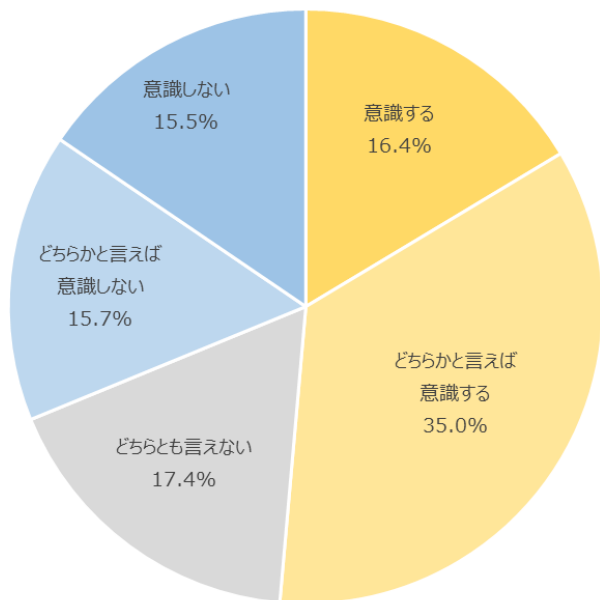


Ⅱ 2022年卒学生就職活動の意向

約半数の学生は、就職活動において、「企業の社会貢献」に関する取り組みを意識

(2) 企業選びにおける、企業の社会貢献に関する取り組みの影響について

「SDGs」に関する取り組みや社会貢献活動を、就職活動において意識しますか？



就職活動で「SDGs (Sustainable Development Goals)」に関する取り組みを「意識する」と回答した学生が51.4%に上りました。「SDGsに関する取り組みや、社会貢献性の高い事業に携われると魅力的だと思う」「働いていて誇りを持てる企業かどうかは重要だと思う」「中長期的に成長していくために、必須な取り組みだと思う」「時代の変化や、時代のニーズに合わせて成長できる企業かどうかの、1つの目安になると思う」などの声が挙がりました。就職活動で「SDGs」を意識する学生は、「SDGs」の取り組みから、「自身が誇りを持って働けるか」や「企業が中長期的に成長するか」を見極めようとしていると考えられます。

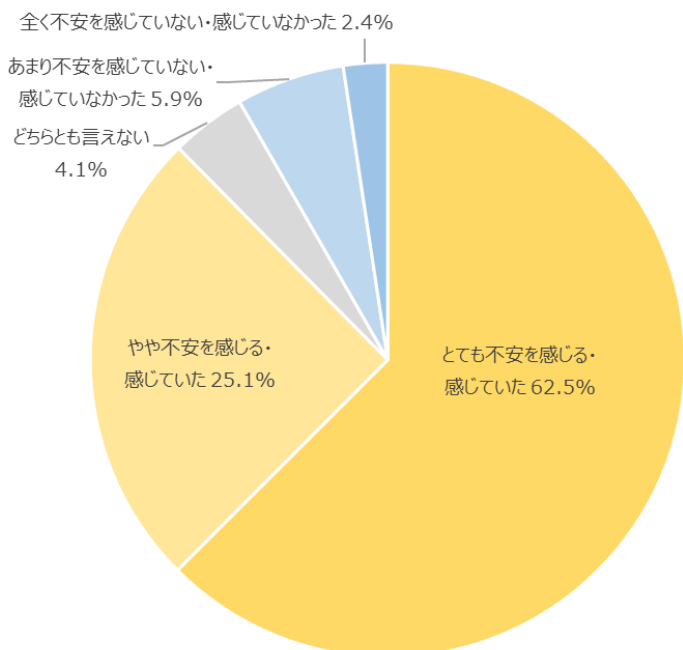
企業選びにおいて、「社会貢献性」も意識。「社会的に意義のある役割を担えるか」仕事内容かどうかや、企業の「SDGs」に関する取り組みを意識している。「社会貢献」や「ステイクホルダーとの関係構築」は事業の継続・発展にも不可欠ととらえている傾向。

2. 就職活動のモチベーション

就職活動に不安を感じている(感じていた)学生が87.6%

(1) 就職活動への不安

就職活動について不安を感じているか・感じていたか



就職活動について、不安を感じる(内々定を獲得した学生は「不安を感じていた」と回答した学生が87.6%に上りました。

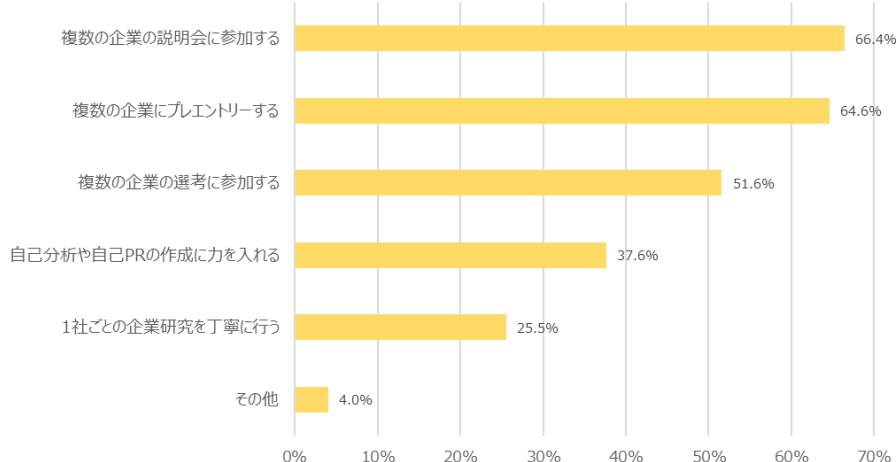
既に内々定を獲得している学生は、「とても不安を感じてた」と回答した割合が52.5%に留まってものの、内々定獲得に至っていない学生は「とても不安を感じる」と回答した割合が74.1%となりました。

Ⅱ 2022年卒学生就職活動の意向

(2) 就職活動に関する不安の解消について

就職活動における不安を解消するために取り組んでいること・取り組んでいたことは、「複数の企業の説明会に参加する」が66.4%で最多となりました。次いで、「複数の企業にプレエントリーする」64.6%、「複数の企業の選考に参加する」51.6%で続きます。

不安を解消するために取り組んでいること・取り組んでいたこと(複数回答可)



※就職活動に不安を感じる・感じていたとした学生が回答 (n=804)

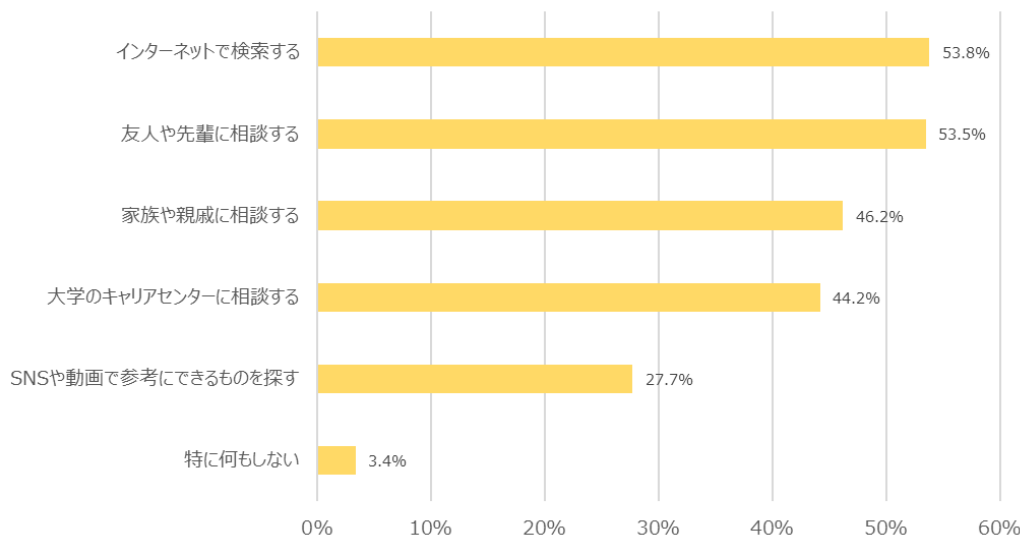
不安解消のために取り組んでいること・取り組んでいたことは、「複数の企業の説明会に参加する」が最多。
不安解消のために、企業と接点を増やしている。

3. 就職活動の不安や疑問の解決方法

(1) 就職活動の疑問の解決・相談方法

就職活動における不安や疑問を解決する方法は、「インターネットで検索する」が53.8%で最多。次いで、「友人や先輩に相談する」53.5%、「家族や親戚に相談する」46.2%と続きます。「インターネットはすぐに結論を知りたいときに便利」「エントリーシートの書き方や面接対策などはYouTubeで動画を見て情報収集した」などの声が挙がりました。また、「自己分析は家族や友人とから、客観的な意見ももらいながら進めた」「最近就職活動をしたばかりの人の意見が一番参考になると思い、先輩に相談していた」といった声も挙がっており、「インターネットの情報」と「リアルな人間関係での相談」を使い分けられていると考えられます。

就職活動における不安や疑問の解消方法(複数回答可)



就職活動の不安や疑問の解決・相談方法は「インターネットで検索する」が最多。次いで「友人や先輩に相談する」「家族や親戚に相談する」と続く。疑問や不安を解決する方法として、リアルな人間関係の中で「相談する」という回答を、「答え」をインターネット上で「検索する」が上回る結果となった。



東証一部上場

学情
GAKUJO

45
★
YEARS
ANNIVERSARY
おかげさまで、創業45周年



■東京本社	〒100-0006	東京都千代田区有楽町1-1-3	東京宝塚ビル7階
■大阪本社	〒530-0001	大阪市北区梅田2-5-10	学情梅田コンパス
■名古屋支社	〒460-0008	名古屋市中区栄2-3-6	NBF名古屋広小路ビル8F
■京都支社	〒600-8008	京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8	京都三井ビルディング3F
■福岡支店	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前2-1-1	福岡朝日ビル8F

TEL (03) 3593-1500 (代)
TEL (06) 6346-6861 (代)
TEL (052) 265-8121 (代)
TEL (075) 213-5611 (代)
TEL (092) 477-9190 (代)